

テーマ:

農業体験を通して生きる力を育成する

和歌山県
白浜町立安宅小学校
金田 義 校長先生
坊木 人己 先生

この活動の特徴

「凜々子」活用のポイント①

地域の資源をフル活用！
土壌改良と堆肥づくりで
本格農業体験

「凜々子」活用のポイント②

体験活動をテーマにした
月に一度の俳句発表会で
「表現する力」を磨く

「凜々子」活用のポイント③

本物体験を通して
実社会で使える
コミュニケーション能力を磨く

活動のねらい



- 全校縦割り活動の中で、農業体験を通して物事を成し遂げる力を「実行力」と位置付け、児童の思考力・表現力・判断力を総合して磨く。
- 本校の研究テーマ「言葉で表現する力の向上を目指して」と連動し、体験活動を俳句・詩・短歌などで表現し、児童相互の意見交換や地域への発表を行う。

活動の概要と流れ

対象学年 : 全校児童1～6年生(16名)
教科 : 生活科・総合・国語科・特別活動
実践期間 : 通年

時期	学習活動
前年度12月 ～4月下旬	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の前にある休耕田を借り、土壌改良に取り組む。 ・地域の方にいただいた籾殻で燻炭作りを行う。 ・地域の山の側溝の腐葉土や運動場の刈草を集め、EM ぼかしを混ぜて堆肥を作る。
5月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・マルチを敷き、畑に苗を植える。
随時	<ul style="list-style-type: none"> ・芽かき、支柱立て、雨除け設置等の作業を行う。
7月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・初収穫。「凜々子」のゼリーを作って全校で試食する。
8月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み中のプール指導の後、「凜々子」コンポートを作って試食する。
11月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・学校文化祭で、「凜々子」など栽培活動をテーマにした俳句を地域の方や保護者の前で発表する。



ここがポイント! 取り組みの工夫



「作物づくりは土づくり、土づくりは人づくり」を合い言葉に本格農業体験!

本校は日置川流域の豊かな自然や耕作地に囲まれた立地条件と、小規模校ならではの特色を活かして、30年以上前から勤労・農業体験学習を学校教育の柱として位置付けている。

今年度初めて「凜々子」を知り、ホームページに掲載されていた他校の実践事例が、本校の取り組みと共通する点が多かったことから、本校でも「凜々子」を栽培することにした。



「凜々子」の栽培活動は、学校の前にある休耕田の土壤改良から始まった。地域の山の側溝にたまった落ち葉や校庭の刈草を集め、地域の農家からいただいた籾殻や糠にEMぼかしを加えて堆肥を作った。子どもたちは、



慣れない作業の連続に、土づくりの大変さを実感していた。

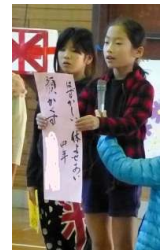
昨年の12月から、土壤改良剤となる燻炭作りにも取り組んでいた。籾殻をいぶしてつくる燻炭は、土の保水性が良くなる、微生物が増える等の効果がある。子どもたちにとって初めての燻炭づくりでは、籾殻が燃え尽きて灰になってしまったが、繰り返し作業するうちに、火を止めるタイミングをつかんでいった。

子どもたちが苦勞して作り上げた土がたっぷりに入った、栄養満点の畑に「凜々子」の苗を植え付けた。



実体験をテーマにした月に一度の俳句発表で、自分の思いを「表現する力」が育つ

本校では3年前から研究テーマ「言葉で表現する力の向上を求めて」と関連づけて、栽培活動をテーマにした俳句作りに取り組んでいる。毎月1回、全校で俳句発表会を行っており、11月の地域に公開する学習発表会では、2名の児童が「凜々子」の活動をテーマにした俳句を発表した。



自分の思いを短い五・七・五の中に込めるのは難しい作業だが、1年生でも6月から取り組んでおり、俳句と共に、句に込めた思いを説明するという発表を行うことで、自分の思いを短い言葉で表現する力が育っている。



取り組みの裏話...

トマト収穫とデザートづくり

初めての「凜々子」栽培だったので、生食用トマトと同じように作業をしました。わき芽は全て摘み取り、支柱を立てて、雨除けのビニールも設置しました。畑の土は申し分ないはずなのに、なぜか夏前には草丈が止まり、収穫できたのは、苗20本から80個くらいでした。

後になって、加工用トマトの肥培管理がこんなにも生食用と違うと知り、本当に驚きました。子どもたちに間違った作業を指導してしまっ、申し訳ないことをしたと反省しています。



調理活動では、ガイドブックを参考にして、トマトゼリーを作りました。4年生にはゼラチンを近所の商店に買いに行かせ、お店の人とのコミュニケーションの機会にもしました。校庭にあったハーブを添え、とてもおいしそうに出来上がったのですが、子どもたちの評判は、イマイチでした…。そこで、夏休み中のプール指導の後、畑に突っていたトマトを収穫して、再度コンポート作りに挑戦しました。すると、今度は大成功! トマトが苦手な子どもも喜んで食べていました。

来年度は、加工用トマトの肥培管理をしっかり押さえて、ケチャップの加工販売ができるくらいの収穫量を目指したいと思っています。

子どもたちの気づき、実践の成果



教科で習得した表現力を体験の場で活かす「生きた学習」

以前から実践してきた農業教育と「言葉で表現する力」を関連付けて取り組むようになってから、言葉で表現することが苦手だった子どもも、自分の思いを自分の言葉で表現できるようになった。特に、実体験をテーマにした文章作成は、子どもが実感したことをそのまま表現しやすく、繰り返し書いて発表する活動を行うことで、書く力だけでなく、話す力も育った。

■5・6年生作成「安宅小ふれあい新聞」より抜粋

「できたくん炭は、みんなでポリバケツへつめて畑へまきます。くん炭を入れるたびに土がやわらかくなって、ミミズが増えているのが分かりました。」



「夏には地域のイベントでスイカの出張販売をしました。ぼくは、会計係だったので、大声で呼びかけながら計算も同時にするのが難し

かったです。多くの人が、ぼくたちのスイカに興味をもってくれたので、刈草運びなど今までの苦勞がふつとびました。」



本物体験を通して、実社会で通用するコミュニケーション力を磨く！

今年度は、「凜々子」の他にグリーンカーテンとして、低学年ゴーヤ、中学年ヘチマ、高学年ヒョウタンと3種類の蔓性植物を栽培した。サツマイモ(安納芋)は苗作りから行い、スイカ、青梗菜等、地域の農協や農林業の祭りで販売活動も行った。玉ねぎは、給食センターから注文を受け、高学年が計量し、出荷している。

販売活動では、3年生以上が休み時間等も使って、洗浄・選果・計量・袋詰めを行う。販売価格も児童が相場を調べて設定、本物のお金を扱うので、子どもたちも真剣に取り組んだ。販売時には「おいしいスイカの見分け方は?」「どんな肥料使ったの?」等、お客様の質問に丁寧に答え、自分たちの農作物を商品としてアピールすることができた。



「いくら声をかけてもなかなか売れなくて声がかれてきたけど、初めの1袋と最後の1袋が売れたときは、思わずうれしくて、『ありがとうございます』の声がいつもより大きく出せました。」

先生から一言! 実践を通して

私たち教師は、子ども一人一人の成長に合わせて、少しだけ挑戦すれば達成できるような「場と役割と責任」を与えるようにしています。そして、できたら褒める。すると、自信がついて、次の活動にも積極的に関わるようになります。すべての活動が、次の活動のステップとなって、つながっているのです。

栽培、調理、販売、あらゆる活動に必ずコミュニケーションが必要ですよね。こうした活動の中で、日頃教科で学んだ「伝える力」を活かすことが、実社会で使える「生きる力」につながっていくのだと考えています。

小規模校だからこそ、ここまで手をかけられる面もありますが、なによりこの豊かな資源があるからこそ、ここまでの取り組みができるのです。理解し、協力してくださる地域の皆さんにも感謝しています。

受賞理由



ここまで本格的な「農業」に取り組んでいる事例は、初めて見ました。給食センターにも販売しているなんて驚きです!自分たちが育てた野菜を、出荷・販売するという貴重な体験ができるのは、地域の中で学校が築いてきた伝統があるからなんだね。

体験したことをテーマに「言葉で表現する」学習と関連付けたことも、大きな成果につながっています。新聞づくりでは、子どもたち一人一人が、自らの体験を自分の言葉で素直に表現していて、活動の大変さやみんなの達成感がとてもよく伝わってきました。